

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970400566		
法人名	医療法人 健和会		
事業所名	グループホーム ふれあい天理 (1階)		
所在地	奈良県天理市中之庄町531		
自己評価作成日	令和4年2月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カオア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘四丁目4番33号
訪問調査日	令和4年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の生活をその人らしくと職員が思いながら暮らしていける場の提供を心がけています。又医療 看護 介護の三拍子の揃ったふれあいの里の一角にあることで、入居して月日がたつとレベル低下等様々な変化がでてきます。そのような時にはそのかたに合った生活の場を本人様、家族様に安心して提供をさせて頂く事ができます。認知症の方々が年々増えてきているのは事実です。事業所としては全力で支援して行きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな自然に囲まれた事業所は、建物が木目を基調とした造りで温かみがあり、天井も高く開放感があり、リビングの窓からは日の光が差し込み、また廊下などは間接照明を活かしてとても落ち着いた雰囲気になっています。母体が医療法人で医師と看護師の訪問が週2回ずつあり、24時間の医療連携体制も取っており、利用者及び家族の希望があればグループホームにて看取りも行っています。また法人グループ内には病院はもとより特養や老健等の入院入所施設もあり、利用者の状態に応じて転居等の相談に乗ることも出来ます。事業所内における利用者の支援については、食事の準備や後片付け、また洗濯や掃除など、利用者が出来ることは職員が寄り添いながら一緒にを行い、利用者一人一人が役割を持ってその人らしく過ごせるよう支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念の唱和を行うことにより、理念に基づいた関わりが出来る様に努めています。	事業所の玄関に地域密着型としての理念を掲示しています。また職員は入職時に理念を暗記し、毎朝の朝礼時にはその理念を唱和し、職員全体で理念の共有実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍なので地域での行事ごとは中止になっており、唯一食事のお米は地域の農家さんから購入しています。	以前は法人全体の夏祭りや地域主催の行事等で地域との交流を図っていましたが、現在はコロナ禍による感染予防の為、交流の機会が減っています。	令和3年5月に管理者が変更になっています。地域交流再開に向け地域の方にあいさつに赴くことからスタートしてみたいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所としての取り組みは出来ていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染に対する法人の対応策もあり開催はしていません。	コロナ禍による感染予防の為、今年度の開催はしていません。	コロナ禍ではありますが、書面での事業報告や質問票を用いての意見交換等、書面での会議開催をしてみたいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナの影響で出来ていません。	担当職員の方と意見交換できる関係性で、コロナ感染予防の情報提供を受けるなど、協力関係が築けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修も新型コロナの影響で出来ないで業務内で気を付けて話をする様になっています。玄関の施錠は夜間のみで日中は出入り出来るようにしています。	玄関等施錠は夜間のみで、日中は解放され利用者の行動に合わせ散歩に出かけるなどして対応しています。朝礼時や日々の業務中に身体拘束に関する話をし、職員全員が認識を持った上でケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スピーチロックに気を付けている状況です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人制度を利用されている方が1名おられ検討しておられる方はおられません。研修する機会を逃しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行います但不十分なところもあるので、随時分からない事があれば連絡して頂くようには声掛けをさせて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内 法人内、外部の方を招き第三者委員会を設置し館内に開示しています。	利用者の声には常に耳を傾け、利用者家族に対しても面会時や電話連絡時に話をし、何でも話せる関係づくりをしています。出された意見や要望は職員間で検討し、ケアの実践に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	夏と冬の2回評価面談時には聞き取ったりしています。普段からも声掛けしながら話しやすい環境を作る様にしています。	管理者は日常的に職員に声をかけ、要望やケアに対する意見等を聞き取るようにしています。年2回個別面談も実施し、業務の見直し、行事や物品購入等の意見や提案について聞く機会があり、その意見や提案を運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日の声掛けを行い物事が言いやすい環境を作るようにしてなんでも言い合えることで雰囲気もよくなり自然に働く意欲も向上していると思っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修は新型コロナで中止が多くなっていてうける機会が全くありませんでした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会はコロナ感染の為行っていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の業務内での声掛けを行い話しやすい環境を作りをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	色々な事をしっかりお聞きすることに心がけています。又連絡は密に取るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームに入居して頂くことがご本人様にとって一番よい選択なのかを考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	接遇に配慮しながら入居者様を家族の一員のような思いで接しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員一人一人がそれぞれの見方で理解して職員間の連携に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限りは対応する意思はありますがコロナ禍なので難しい所です。	家族や友人の来園やその方たちとの電話や手紙(年賀状)のやり取りを通して、馴染みの方との関わりを支援しています。また年2回ふれあい新聞を作成し関係各所に発行しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係が出来ておられますがいろんな場面があり、職員が中立の立場を守りながら関わりを持っています。又関わりが少ない方には個別でその方に配慮しながら関わりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居、入院、されてもその後の事の様子などはお聞きするように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしてこられた背景を大事にしながらその人らしさを残しつつ暮らして頂けるようにしている。	日頃から利用者1人1人との関わりを大切にし、普段の会話の中から思いや意向の把握に努め、家族とも相談し、その人らしく生活が送れるよう支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様 家族様からの情報を提供頂けるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人一人がそれぞれの見方で理解して職員間の連携に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の意向に基づいて目標を持ち、達成の為の状態の観察に努めています。	3ヶ月に1度の見直しで、本人及び家族に思いを聞き、また往診医や訪問看護にも意見を聞き、それをもとに職員間で意見交換を行い介護計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体の記録と個人記録をして職員が一人3名の入居者様を担当して、状態が変わった時等にはアセスメントをするようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	対応がコロナ禍なので今は取り組めない状況にあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の前まではボランティアの導入を行っていましたが、今は資源の活用が出来ていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週2回の往診の主治医と敷地内にある病院との連携が来ています。	選択は可能ですが、法人が医療機関であることから、その強みを知って主治医をホームの協力医に変える人が多い様子です。他科受診などは外部の医療機関を受診することとなり、ご家族の付き添いが必要です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護、主治医との連携も密であり、早期受診を心がけています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人の病院との連携は密に出来ています。病院のカンファレンスに参加して病状説明、今後の事等の状況の理解をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にどうお考えかを書面でお聞きしています。又随時主治医や家族様と相談しながら意向は確認するようにしています。	入居時に将来に向けた話し合いをし、法人内にある他の事業との連携も視野に入れて選択することができ、話し合った内容を書面で残しています。また、重度化が進んだ時にも改めて意向の確認を行い、丁寧に取り組んでいる様子が伺えます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	業務内で話をする機会を持って指導を行い、急変等に対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会の設置があり、ふれあいの里内での協力体制が出来ています。昼夜想定を踏まえて年2回の避難訓練を実施しています。	ホーム内はもちろん、法人全体で備蓄を共有化し、災害時の対策を行っています。また、避難訓練も年2回実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇を重んじる法人なので常にその辺りは意識して接するように努めています。その人らしい生活を送って頂けるように努めています。	接遇について力を入れており、そのためのプロジェクトチームを法人内で結成しています。2か月に1回、接遇にまつわる標語を職員に公募し、選ばれたものを朝礼で唱和しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誘導するような言葉かけでなく、本人様が考えて選択して頂けるように言葉をかけていけるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の様子は毎日変わる物なので柔軟な対応で臨機応変なことが出来るようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の散髪屋さんの訪問があり綺麗さっぱりして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立、食材調達、調理はグループ内で行っています。下ごしらえ等は入居者様の出来ることは積極的に行ってもらっています。	食後の後片付けなど率先してエプロンをつけ活動する入居者もおり、役割として定着している様子が伺えます。その他にも季節ごとに特別なメニューを外注するなど、コロナ禍においても楽しみを持っていただける企画にも取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を知る為に記録に残しています。栄養バランスは献立立案時に考えています。水分はなかなか飲んで頂けないので、寒天を作っておやつ時提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は歯磨きをして頂き足りない所は職員が補っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の誘導と随時トイレ誘導を状態に合わせて行っています。排泄の様子は記録に残しています。	極力トイレで排泄ができるよう推進しています。排泄介助の形態や排泄用品を決める上で、チームで検討し、取り決めを行い対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事 水分 運動と個人に合わせた管理で、薬の処方についても主治医に相談して検討しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日はユニット毎に曜日を設定しています。時間帯は職員の勤務時間に合わせた設定なのですが、本人様の希望に沿って、ゆっくり入って頂けるようにしています。	入浴日は週2回の予定があり、その他、希望あれば随時の対応が可能です。季節感を感じていただくためにゆず湯や菖蒲湯などを実施し、入浴を楽しめるよう工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜のリズムがつけられるように配慮しながら、状況に応じて臥床を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1回ずつ手渡しで個々に合った服薬の援助を行っています。症状の変化の観察をして、随時主治医にも相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	状態に合わせて個々に合った関わりが出来るように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナの影響で出来ていません。	新型コロナの影響で人の集まる場所への外出は控えています。季節的にも寒いので散歩も少し敬遠気味ですが、温暖な気候になれば広い敷地内を散歩したり、桜の木でお花見をしたり、また掃き出し窓から外に出て日光浴をするなど気分転換を図ることが出来る支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナの影響で出来ていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況に応じて電話連絡をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく生活して頂けるように努めています。	木を基調とした建物で温もりを感じる造りになっています。リビングの窓からは日光が差し込み、明るく落ち着いたある居心地の良い空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に行き来できるようには努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみの環境を作って頂けるように家族様とは相談しています。	家具の持ち込みは自由で、使い慣れた物品を持ち込むことが出来ます。個々の居室は、自分の作品を飾ったり、家族の写真を飾ったりと、家族の協力を得ながら、利用者が居心地よく過ごせる様に工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	他の入居者様との関係性などを考慮しながら自立支援に努めている。		